

第6章 総括

第6章 総括

まとめ

本調査研究では、「職業訓練の指導場面における ICT の活用」と「訓練運用における ICT の活用」の2つのステージについて調査・開発を行ってきた。

指導場面における ICT の活用については、令和4年度から5年度の試行実施を踏まえ、従来の指導に「ICTを加える」、または「置き換える」ことにより、より見やすく、より分かりやすく、より安全に、より効率的な5種類の ICT 指導技法の開発に至った。今後、更にデジタル技術が進展することで、より効果的な指導技法となるであろう。

一方、訓練運用における ICT の活用は、今後の課題として先述したとおり、職業訓練データの標準化を行い、環境整備を行うことでデータ駆動型職業訓練による個別最適化が可能となり、訓練受講者の利便性は、飛躍的に向上するであろう。

ただし、留意すべき点は、デジタル技術を訓練指導場面や運用場面に導入すれば、訓練受講者は、技能・技術を習得できるわけではない。職業訓練へデジタル技術を導入することは、「訓練受講者の習得状況に応じ、技能・技術の習得が効果・効率的に推進できる一つのサポート手段」を提供したことである。

重要なのは、指導員、能開施設の各関係者が訓練受講者に技能・技術を着実に身につく指導を真摯に行い、その後の仕事に活かすことができる人材を育てるという想いと行動であり、そこにどのようなデジタル技術を有効的に活用するかである。

我々は、「常に最適な職業訓練とはなにか？」について社会情勢や技術の進展と踏まえ、考え、行動（訓練の改善等）するべきであろう。

最後に本調査研究の成果物として、5種類の ICT 指導技法に係る「ICT 指導手順シート」、「ICT 利用マニュアル」、「指導員に向けた ICT 指導技法の紹介動画」を制作しており、基盤整備センターが管理及び運営するホームページにて公開する。併せて、各種動画教材についても、指導員専用ページにて公開する。

また、研修として「ICT 指導技法実践研修（動画教材 作成・活用編）」を開発している。

全国の能開施設がこれらの成果物を活用いただくことで、指導員が ICT 指導技法を実践し、訓練受講者の技能・技術の習得に寄与できることを期待する。

